

氏名 鶴 見 哲 也

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 1141 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和 55 年 9 月 30 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)

学 位 論 文 題 目 内視鏡的膵胆管造影成功率改善に関する研究

第 1 編：内視鏡的膵胆管造影を目的とした十二指腸乳頭および、膵胆管末端部の解剖学的研究

第 2 編：内視鏡的胆管造影成功率に関係する因子の検討（胆管造影成功率改善を目的として）

論 文 審 査 委 員 教授 長島 秀夫 教授 大藤 眞 教授 折田 薫三

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

内視鏡的膵胆管造影，特に胆管造影の成功率改善を目的として，第 1 編では解剖実習時及び病理解剖で得られた 58 例の材料を用いて，十二指腸主乳頭の肉眼的な形態と十二指腸主乳頭内における胆管・膵管末端部の走行形態および開口形態とを比較検討し，2，3 の新知見を得た。第 2 編では先づ第 I 段階として著者らが内視鏡的胆管造影を目的として施行した 787 例を対象として三期に分け，期間別の成功率を見た。第 II 段階として，最近施行した胆管造影例 194 例を対象として，胆管造影成功率に関係すると思われる因子について検討を行い，第 1 編で得られた知識をもとにして，主乳頭及び膵胆管開口部の形態，主乳頭の腫大の有無，カニューレ挿入の部位，方向，深さ，および回数，患者の体位，Oddi 氏筋弛緩剤の使用の有無，および施行者の功拙等が重要な因子となる事を見出し，内視鏡的胆管造影に成功するための実施法を確立した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

内視鏡的膵胆管造影，特に胆管造影の成功率改善を目的として，十二指腸主乳頭の肉眼的な形態と十二指腸主乳頭内における胆管，膵管末端部の走行形態および開口形態を詳細に検討し，それらの知見をもとにして内視鏡的胆管造影に成功するための実施法を確立したもので価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。